

前回会議で指摘のあった課題に対する検討について

- 第2回全国在宅医療会議において、構成員からは、各団体が重点分野に関する取組を進めていくことに関して、
- ・ 同職種の中でも団体が複数存在し、在宅医療に関する取組について、別々の形で取組が進んでいる。専門分化していくのも一つのあり方かもしれないが、地域ではそんなことは言っていられない状況である。
 - ・ 地域包括ケアシステムの構築を進めていくうえで、エビデンスをどうするか等の問題を、ある程度集約的に考えていくことが必要ではないか。
 - ・ 中央ではいろいろな団体に分かれていても、都道府県レベルでは、各団体が一緒に活動している。そういう意味では、医師会や歯科医師会、薬剤師会、看護協会を中心に、その他の団体を加わってやっていく枠組み、体制をしっかりとつくっていく必要がある。

等の意見があった。

- こうした意見があったことを踏まえ、日本医師会をはじめとする関係団体は、特に積極的な役割が求められており、行政と車の両輪として、在宅医療提供体制の構築に取り組んでいく必要がある。各団体が重点分野に沿った取組を進めるにあたり、各団体が協働し、より効率的に事業を進めるための課題や対策について、整理してはどうか。
- また、例えば、以下のような点についてどのように考えるか。

(考えられる具体的な論点の例)(P)

- ・ 各団体がそれぞれ実施する在宅医療に関する研修について、どういった能力が獲得できるのか等の目標設定の違いが、受講生にとって明確に理解できる環境になっているか。
- ・ 在宅医療に関するエビデンスを蓄積していくにあたり、各団体がそれぞれの取組と、今後在宅医療を推進していくうえで必要なエビデンスは何かを、整理する必要があるのではないか。